

子牛は生後3ヵ月が勝負！

繁殖経営は、子牛を無事生ませて、順調に成長させて市場に出す事が大事です。



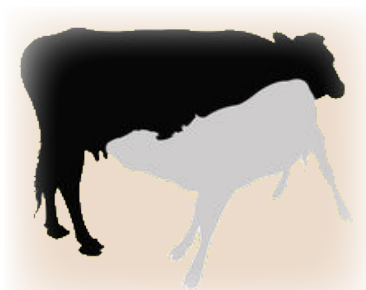
畜産部
畜産指導課調査役
半渡 健一

1. お産の準備

- ・分娩前には分娩室に十分な敷料を用意しましょう。
分娩したら母牛が子牛を舐めますが、これからの寒い時期は素早く拭いてやることで子牛の体温低下防止となります。
- ・へその緒にはイソジン等をたっぷりかけてください。

2. 初乳の摂取

- ・子牛が立ち上がり、初乳を摂取しているか確認しましょう。
母牛が子牛に母乳を飲ませない場合は、母牛を保定して子牛に吸引させるか、搾乳して給与する方法もあります。
母牛からの初乳が摂取されていない時は、市販の初乳製剤を利用しましょう。



3. 最初の栄養源は乳

- ・母乳が出ていないか、不足している場合は、代用乳（粉ミルク）を利用しましょう。（代用乳を溶かす温度は40～45度を目安に）
- ・えづけ飼料（スターター）は生後3日頃から慣らしとして給与し、自由採取で1.5～2.0kgを摂取できるようになれば離乳しましょう。
最初えづけ飼料を食べない時は、口の中に少量のえづけ飼料を入れてあげる方法もあります。

※哺乳中であってもきれいな水が飲めるようにしてください。



4. 畜舎の環境

- ・床面は清潔な敷料を用意してあげましょう。
特に寒い冬場は、床面が汚れて濡れていると子牛のお腹が冷えて体温低下や体力消耗の原因となります。
- ・換気については子牛の顔の高さの状態を確認しましょう。
（アンモニア臭があると呼吸器病の原因となります。）
- ・隙間風にも十分注意してください。



双子座
5/21
～6/21

【全体運】 部屋の中を整理整頓すると頭の中もすっきり。迷ったら掃除をするのがお勧めです。野菜たっぷりの食事で開運
【健康運】 サウナや岩盤浴でじんわり汗をかいて
【幸運を呼ぶ食べ物】 ホウレンソウ